福岡県の主な農産物の生産状況

令和５年７月 14 日現在
（専技情報より抜粋）

◇早期水稲（夢つくし、ｺｼﾋｶﾘ）◇

４月中下旬植えの出穂期は７月９～１５日程度で平年並みです。
稈長はやや長く、穂数は平年並み～やや少ないです。
県北地域を中心に、ほ場内でイネカメムシの発生が確認されています。
穂揃期～乳熟期にウンカ類とカメムシ類対策を徹底しましょう。
なお、イネカメムシの発生が確認されたほ場では、出穂後速やかに対策を実施しましょう。
出穂期前後は水を切らさないよう管理しましょう。

◇普通期水稲（夢つくし、元気つくし、ﾋﾉﾋｶﾘなど）◇

６月上旬植えの「夢つくし」は茎数が確保され、中干し時期を迎えています。
移植後、高温多照で経過したため、生育は順調に進んでいますが、降水量が少なく、用水を確保しにくいほ場では生育量がやや小さいです。
ウンカ類の飛来は、平年より遅く７月上旬から始まり、トビイロウンカの飛来量は平年並みの見込みです。
また、現時点でいもち病の発生は少ないです。
６月中下旬植えは、茎数が確保され次第、中干しを開始しましょう。
雑草が多い場合には、中後期の除草対策を実施しましょう。
ウンカ類やいもち病等病害虫の発生に留意し、適切な対策を実施しましょう。

◇大豆◇

播種は、県北部を中心に６月中旬から開始され、７月１０日時点の播種面積は 106ha で、進捗は平年より遅れています。
６月中下旬播種の出芽、苗立ちは概ね安定しています。
７月１０日の大雨により、播種済みのほ場の一部で冠水被害が発生しました。
今後、７月中旬を中心に播種が本格的に進みます。
ほ場条件が整い次第、速やかに播種しましょう。
乾燥が続く場合は深播きしましょう。
播種時期が遅くなる場合は、必ず株間を調整して播種量を増加しましょう。
大雨で冠水したほ場では、出芽状況を確認し必要に応じて播き直しましょう。

◇イチジク◇

加温ハウスの出荷量は、面積減(前年比 80%)と加温遅れにより前年より少ないです。
曇天により着色不足が見られるものの、食味は良好です。
露地は、「蓬莱柿」の夏果の出荷開始は 6/22 で前年並みです。
７月上旬から出荷量が増加する見込みで品質は良好です。
施設、露地ともに、ハダニの発生が見られます。
大雨により一部の園地で浸水被害が発生しました。
適期収穫および鮮度保持管理に努めましょう。
疫病の発生が懸念されるため、園地の状況を確認し、速やかに対策を行いましょう。
梅雨明け後は、日中の気温が 35℃を超えると障害果の発生が多くなるため、こまめなかん水を行うとともに、施設栽培では、妻面のビニール除去等により換気を徹底しましょう。

◇温州ミカン◇

着果量は、極早生、早生、普通とも平年より多く、肥大も良好です。
摘果遅れによる小玉果の発生や、着果過多による次年度の着花不足、高温による日焼け果の発生が懸念されます。
黒点病の発生が懸念されるため、園地の状況を確認し、速やかに対策を行いましょう。
着果が多い園では、早急に摘果を行い、果実肥大促進と翌年の結果母枝確保を図りましょう。

◇カキ◇

「西村早生」の種入りは並、「富有」では少ないです。
着果量は、全品種とも概ね良好であるものの、「秋王」は、６月下旬から７月上旬の寡日照により、樹勢が強い樹を中心に生理落果が見られます。
灰色かび病による果面の傷が多いです。
大雨により、一部園地で土砂流入や園地崩落が発生します。
炭そ病の発生が懸念されるため、園地の状況を確認し、速やかに対策を行いましょう。
梅雨明け後は、敷きわら、敷き草による土壌水分保持に努めましょう。

◇トルコギキョウ◇

６月の出荷量は、生産面積減、春出し出荷作型の前進により、前年よりも大きく減少しました。

一方、販売単価は、前年、過去５年平均比よりも高く推移しました。

秋出荷作型（10～11 月出荷）は、冷房育苗が行われており、７月下旬から順次定植されます。

７月１０日の大雨により一部ほ場で浸水被害が発生しました。

土壌消毒後に浸水したほ場では、表面を軽く耕起し、再度土壌消毒を実施しましょう。

定植前から寒冷紗を被覆し、定植時の地温上昇防止を図りましょう。

定植後は抽台開始まで十分なかん水を行いましょう。

◇シンテッポウユリ◇

生育は、育苗期となる２～３月の気温が高く、前進傾向です。

このため、出荷最盛期は７月下旬となる見込です。

葉枯れ病の発生は少なかったものの、６月下旬以降の降水量が多く、収穫直前での発生が懸念されます。

大雨により一部ほ場で浸水被害が発生しました。

浸水したほ場では、マルチを畝肩まで上げる等通気性の確保を図りましょう。

梅雨明け後の高温・乾燥により葉焼けが発生しやすいため、カルシウム剤の散布等の対策を徹底しましょう。

◇肉用牛・豚・鶏◇

牛枝肉単価は、「父の日」の販促が組まれたものの、生活必需品や光熱費の負担増で、５月に引き続き低調で前年をかなり下回りました。

７月の出荷頭数は 前年同月をやや上回る見込みです。

豚枝肉価格は、消費者の節約志向で牛肉から豚肉への需要シフトが継続しており、前年比、過去５年平均比ともに上回りました。

７月の出荷頭数は前年同時期をやや上回る見込みです。

鶏卵価格は、梅雨の不需要期に入ったものの、供給量不足の状態は変わらず、前年比、過去 5 年平均比ともに大きく上回りました。

鳥インフルエンザの影響から段階的に回復しているものの、7 月の生産量は前年を下回る見込みです。

大雨等で浸水した畜舎では、汚れた敷料の除去、清掃と消毒、換気及び乾燥に努めて畜舎内を清潔に保つよう努めましょう。

高温多湿のため、送風や遮光、ビタミンやミネラルの補給等の暑熱対策を徹底しましょう。